

北條五代記

卷九

ナニヤ

以通作
一卷

小除又代記卷十九之月錄

三浦介道す父子滅毛乃事

双紙一部と人救多あく記事付平恭内事

關東侍天下小望とがくふ事

關東乃乱波智略乃事

駆船と海賊といひすくふと事

人名姓号ふもくふと事

關八列乃外小大小毛と事



廣雅

卷之二

卷之三

國朝文獻卷之三

國朝詩人集

故知一舉以盡數也。行年五十，未嘗忘書。

卷之三

卷之四

小除五代記卷第十九

○三浦分道す父子滅亡の事

聞一毛者。相から住人三浦が受領陰與ち
後四佐下平義同法名遵守と号し。又息甚

次郎。彈む少弼義意と云て父子名とす。

る侍わり。是ハ大分義理の後脱ナリ。平治の合

然よどて。二浦慈次郎義澄は源氏よくり

P.軍セ一事。右記よりもナリ。海ノ候の
函小伊勢翁九郎平氏翁と云良士わリ。後
之へ道一。小除早雲と号ヒ。此早雲相

模小國の城と明應のひがひの内うち上松朝
良振城に圍大夜の城とも賣やひと。永正元
年九月早宮と。友以。上松殿立と。大合城あり。三
浦今道す。相模恩崎の城よ多く。早宮もく。
久び叶ひどて。内々年八月十三日城と開
退。内とみトノ城よ移り。年々。海敵
ナリ。通食合城よ。通す討員敗小ヒ。され
ども。秋の太ら。さきゆくま。ばらハ山山
角。きて。海小内。行參よ。あらまく。一勝うちな
せば。幾万勝ひと。ソル叶ひど。海光早

雲大軍也。小坪。秋色。毛坂。黑石。佐原山。打
越。それ。通す。れど。父。一。一。羅。二。千。也。
ぬ。三浦。新井の城よ。まそ。築。ば。城。西。小。
ヘ。海。白。波。立。く。峯。と。山。ち。く。巖。く。そ。み
て。歎。も。け。り。が。ア。城。の。廣。さ。三十。町。方。東
一方。ア。三十。町。方。陸。海。山。水。よ。城。と。拒。門。一。
立。と。北。金。八。万。勝。ひ。と。ソ。老。ガ。せ。ち。少。販
び。と。も。毛。城。城。也。方。す。ハ。至。剛。智。謀。善。候。セ。
大。ね。え。う。と。と。た。通。食。合。城。よ。人。救。や。と。く。を。討
き。小。勢。す。れ。併。ひ。ど。て。三。年。勝。城。ヒ。經。

千駄矢念と号す。大きから岩元あり。毛ト薪小
米穀を千駄矢とす。ば元の内も皆もしく。六板
ま未つさしてぬきば。とてよ城中の者た。雖後よと
よ。まじは度量の圓角とて。上松修理支給真ム
に戸内城と振住と。新井の城中。おおけくあゆ
とす。民川勢と卒。遁す後活とろく。相模
の國。中川守と守越津久。早雲ばくとす。
新井の城がそりて三千勝敗と。空堂スより
人殺。新井と退て。舟繩乃と毛リ。合戰。
討つうれに。とふりた。叶ハシテ。上松人わ式
別へ皆引みと。新井城中れ者ども。かどりみひ
をり。切て出。討死す。べき。脇と切へさうと。せんをし
タキ。大森越後守と。下保田内同表官郎。三
次參河守ヤラる。總河内守谷上總介兼。慈次郎
のあすと。親子の歴縁也。岩根少。近か。おほ
の舟と。お家。上総の圓へ移す。下總。兵列。上列。お
舟と。上松多と。三門。相模の國へ乱入
て。草。玄と退治。と云。撃乃和とす。くぐへ。とぞ
せんをも。おす毛とや。皆くもくく。波とをや。
とく。アラク不神か也。絶よそれ。の。上松も

叔父男なり。時ある嘉子と成て。三浦へ移る。ま後
継母よやか一人出来たり。継母乃後云よもりか
と世よそてんたり。これと害せんもくらうと乃り。
秋のうくむぢひ。シテ。せと通き。小田原總セ
寺トヨモト。およ。家もの者有り。多く。味
方となる。小田原の城主。大森院。あち。加勢。と。二。父
は城よゆ。ぬと。明應三年九月廿三日。よせめ
た。中村民部と。トドケ。あと。ぐくを下ろす。ま
と。中田果と。方ふしづひ。うれ。内小りす。歎の
せめ。うわど。毛ひと。小笠父。父。哥。と。わくら天の
乃耻辱キ。あ。と。内。ス。ト。小。東方朔。六千
歳。うち。ら。八。万。茶。浦。鴻。が。七。百。余。歳。と。限。も。今
かく。終。は。し。か。く。か。う。そ。う。終。六。卒。歿。と。も
ち。り。つ。も。さ。と。一。枚。の。裏。生。者。必。滅。乃。世。の。明。歎。く
ひ。す。う。く。ト。今。生。の。名。歎。キ。と。レ。す。う。酒。と。歎。ん
こ。道。す。孟。と。ひ。え。強。い。く。れ。ふ。河。内。守。君。代。ハ。無
フ。や。然。と。う。そ。よ。葛。次。郎。扇。と。ね。く

群代を。世や千代をト一やニとお現の
 うちの義乃をり。れど舞踏へ。羣の御も同く
 おとせきて。まよ。實もそれから一曲一曲かで。うちの
 事より立内り。又もありひかん事。す。称ばれ。まい
 切とば。ひかん。ヒトと氣幼の舞の神。が。の御
 生て。表かわ。道す。諸侍よりて。いも。毛皮の礼
 義。年々の忠功。わざ。と。強と。ソヘ。帝。が。進食
 も此をとて。二年の範例。よ。共報つさる。き。力。か
 し。ば。中。よ。も。萬ん。と。やり。入。ば。今。と。成。て。出
 嫁す。ぐ。ろす。か。も。嫁。む。か。よ。死せん。と。よ。人。は。討
 死。後代。よ。名。と。よ。ウ。よ。道。す。父。子。の。脇。切。ト。生
 涼の射面。も。先。ま。て。から。後。ち。う。も。口。晴
 き。作。が。それ。今。一大事。と。り。ハ。一。初。の。経。り。と
 そ。せ。り。年。は。日。來。息。祿。と。清。ぐ。財。財。よ。ひ。う。ぐ
 ら。の。豈。仁。乃。わ。か。ん。白。良。文。集。小。嘉。憲。五。鶴。の
 あ。ど。と。と。て。高。君。の。源。息。と。鳥。レ。は。一。大。事。と。道
 世。よ。生。放。り。て。心。と。う。と。者。や。放。え。主。恵。こ。も
 小。討。死。し。名。と。後。代。よ。う。ん。ハ。う。あ。う。力。乃
 く。懐。か。り。と。下。れ。ば。法。率。先。と。す。並。互。言。よ
 く。P。ナ。う。と。の。く。ひ。ぎ。と。て。あ。財。利。被。さ。ビ

門となりて切てゆる。がすうもんとおもふ。徳率を
いきゆよと氣の合致なれば。父付され。子助
けり。じよまうと。みれた。後者。爲合。ど。力のほうち
く。くろと。限り。死と。限り。天地と。ひじうと
ふる様。徳率道もかく。風。道す。うもん
と。みく。下。か。一。よ。而。よ。神。谷。雅。承。ひと。名
家。そ。道すと。因。げ。死。氣。ち。上。そ。と
な。べて。じ。じ。と。く。じ。乃。す。ハ。ゆ。ゆ。太。力。く。
わ。と。せ。じ。ビ。海。面。う。さ。あ。と。絶。ど。せ。や。我。か
ふ。う。や。じ。り。せ。ん。と。縮。魔。乃。喰。乃。う。つ。え

小。せ。し。む。妙。の。前。物。よ。と。自。が。そ。首。絆。ら
切。く。捨。ら。き。ま。う。討。死。た。わ。が。さ。き。身。お。神。谷
推。不。以。は。い。ど。う。り。ナ。ウ。モ。く。う。う。う。う。う
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
み。け。く。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
き。わ。く。大。勢。と。立。切。て。ま。う。う。う。う。う。う。う。う
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う

小りてへとそよ下り。ね又道す。あきよ和
奇と。のましもひい。すれのなまく生
害よ。

うほのもの。けく者も。かうけよ。ふ
く後。のうち。それ。とく。切股。筋
ひの。意次郎。ハサ一歳。黒量。骨柄人。よすく。
き。七尺。身。黒聲。立。血眼。かう。よを
の筋骨。わく。八十人。力。とく。
P.さい。ごの合戦。の。すら。お。立。き。る。甲。
雷。段。と。さ。ひ。わ。つ。二。手。よ。づ。毛。と。常。し

白櫻。の丸木。と。二。丈。二。尺。よ。け。ま。り。八。角。よ。け
は。り。筋。が。の。と。り。ア。ば。根。と。引。き。ひ。人。門。か
ゑ。ゆ。ア。紀。あ。く。あ。る。根。筋。や。ら。せ。ら。の。よ。じ。
か。め。さ。さ。く。ふ。ア。急。太。山。も。く。小。ま。く。海。よ。へ。
う。ん。ち。く。も。あ。れ。く。急。よ。沈。が。く。と。と。方。八。丈
逃。が。者。と。内。活。申。の。頭。上。と。う。て。が。さ。く。
少。く。さ。く。胸。へ。ゆ。え。入。横。よ。う。て。ぶ。拂。よ。
み。人。大。人。す。り。く。相。少。く。死。と。る。者。又
百。金。人。の。戸。地。よ。み。り。そ。き。の。よ。も。も。し。
き。と。先。ら。せ。れ。う。れ。鬼。ま。あ。り。も。が。や。る

は、歎よ。お敗れて。歎もあされがまづも。菊を
かき落す。死まうからされた首へ死せむ。眼へ
さうとぬよ。け。鬼羅の針とすらもうちががく。
牙とくのうち。身見ためする眼のひうち。有毛を
じらぬ。血とそくにまとうごく。さも、ももう
さと、自らくる者。けりまちとんば頸ノ人モカス
人ナス。是よもいて、も詮の貴儒も佛も作く。
庵の大は、極は。呪せられられた、ともすよし。
三年は、首免せむ。小園原久観の。總世寺の。禪師
其事。一翁の詩と詠じよ。

う波とも夏やもあらわ一静す。浮世のひ
ぬとわけがのぞむ。どくとて、もぬほ。眼を
がり。おもちもちら。肉うらて、ゆうべと成ね。ひ落
次郎死ぬわ。百弓定方の。今ふとて。田
畠ぬもぬ。どよどよが。牛馬もゆく。
へてまともあひ。おもちもつふ死と。かく歎き
もとく。も中へへ事か。ちよもま
もうくとまく。お代のまくひ。新井乃
城と見ねせり。道す父子。名譽乃。武士。礼
とく。城の大ひ古稀の外ぬく下ら。れ敬也

は合戦と。七月十一日から。今も七月十一日よ
き。毎年新井の城。と云。旁かかひて。自内
えもさうす。並。並。寅の方と。未申の方よ
卫電。やきゆく。あ方のをへれき。風猶穴
と吹よ。その中ふ。失散。失散のれども。予文
とみ。廬をよ。馬を散入れき。天地と
ひぐれ。よも根。木そろ。そとも云ひ
す。がくがゆ。よは右城のわたりす。人家もあ
し。一里。むらり。よまきと。村里。刀。そそり。ね
不。お。汝の事。も。ろす。父子。乃。討死。父。天。下
今年戊寅の年。七月十一日の寅刻也。茲所よ
小隙民政の切腹也。天正十八庚寅の年。七月十一日
寅刻。す。七十二年。小。歳。年。月。日。刻。たゞ。の
も。果。絶。しき。固。果。の。と。つ。り。よ。な。そ。ろ。り。が。り
れ。父。祖。の。義。恩。が。れ。ど。子。孫。よ。と。よ。ど。
る。右。人の。云。義。ち。じ。ひ。き。れ。そ。り。じ。ら。す。つ。さ
の。次。す。三浦。の。老。人。相。張。と。わ。づ。先。記。一。ゆ。考。
○。双。紙。一。部。と。人。數。多。う。そ。記。と。事。付。革。奏。明。ト
す。今。世。局。の。例。う。て。人の。詰。り。傳。ね。遠。の
と。か。て。い。生。保。元。平。治。の。は。より。世。紀。と。源

年。合戦の次第と記しとさる。大駕の文がほ
ひそむす。是ハキモ一人もく。世の人口と事、
先。もあす。キモト。右き文をど。是れと申
そ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
そ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
真。と。り。や。世。上の。風。俗。お。ろ。く。書。つ。ま。し
も。あ。あ。と。ご。あ。事。も。一。精。よ。な。わ。ま。ど。う。が。ま。れ
き。人。手。ぐ。の。一。生。源。と。ま。の。内。二。洗。三。洗。記。せ。り。矣
洗。ハ。一。ツ。す。で。い。き。ま。ド。な。れ。た。や。事。た。れ。が。洗。あ
や。か。多。洗。と。書。と。さ。そ。す。り。極。又。東。渡。ハ。乾。胡。ム
紫。金。軍。家。の。子。細。と。記。せ。り。ば。文。二。个。て

き。う。じ。ど。る。軍。教。代。相。續。一。天下。の。事。と。通。金。ふ
て。ゆ。活。せ。る。あ。か。の。り。て。右。筆。も。だ。見。ら。た。な。年
号。月。日。所。刻。也。も。毎。月。記。一。置。キ。モ。ミ。年。一。帳
一。款。う。東。渡。と。号。も。び。文。よ。と。て。富。庫。去。る
も。じ。と。ね。く。も。り。ま。前。は。盛。裏。記。軍。家。相
宿。太。平。紀。が。じ。へ。東。渡。み。ね。遠。の。そ。れ。か。そ。づ。れ
を。じ。と。み。み。へ。ち。り。る。と。と。な。人。ま。と。慶。長
年。中。家。康。云。是。と。見。出。す。と。て。あ。き。ひ。に。ま。

東。渡。の。行。事。ア。

ジ。カラ。ノ

ゼ。フ

ス

ガ。ス。六。元。年。

夫。人。之。處。世。也。言。行。之。善。不。善。不。可。不。記。

要得一善記之則百世善其人得一恩記
不慎乎也。氏記春秋而作万代龜鑑得良
史名者難矣哉。東鑑一書者自治集四年
至文永三年八十七載之間傍羅曲櫛。又
大抵記之不知記者名為遺曠久歷年代。
其名湮壞耶。深隱山林。其名埋沒耶。抑又
謙退似不著其名耶。見此書則言行之義
惡如指掌也。吾

太尉軍源家康公治世之暇。耽弄此書。見

善思。每見不善。內自省也。凡人主所趣
向天下。隨之如風草形影也。以東鑑石之
者。非無所由。殷以夏爲鑑。周以殷爲鑑。詩
曰。殷鑑不遠在夏。后世今也。刻梓以壽其
傳後世能見此書。辨別淄澗。則非啻東川。
明鑑豈不作四方鑑戒乎。平書之以為跋。

慶長拾總星集。己酉春三月日

前龍山見鹿苑集。元叟

右の文は文永三年小豆の記せり。ともより慶長
十年迄三百四年の間。少くも隠遁の人也と

和ビ今檜ノ刻でモ。後代乃キ溢^{キクル}よ遍^{カマクタス}人
タ。惟^ハ先^シと伝用せらる^ベ。後^ヨ保元の合戰
策^{シテ}文武^{の名}とテ^{シテ}人^と數多^シ書記せ^ラ中
小^シ。源家五代の内^ミ威盛^{アサヒ}の年^ヒ卷^ヒ。希代の道
じ^{シテ}おれ^トり。せ^シ人^と辭^{ハシム}遣^{ハシム}。詔^{ハシム}人^と去^{ハシム}。する
金^ヒ多^シり。貞永元年十一月廿八日奉^{ハシム}。
所^シの國^{シテ}う^{シテ}。今^{シテ}和^{ハシム}。けり。仕^{ハシム}の^{シテ}達^{ハシム}
持^{ハシム}。奉^{ハシム}。と^{シテ}。廿八日^{シテ}の上^{シテ}お^{シテ}。ビ。眼^{ハシム}
千^人の者^{ハシム}。と^{シテ}先^シの礼^{ハシム}。年^{ハシム}。や。尤^{ハシム}傍^{ハシム}
將^{ハシム}の推^{ハシム}。取^{ハシム}。内^{シテ}中^{ハシム}。日^{ハシム}。前^{ハシム}。司^{ハシム}。民^{ハシム}。部^{ハシム}
本支^{ハシム}。國^{ハシム}。方^{ハシム}。首^{ハシム}。親^{ハシム}。實^{ハシム}。入^{ハシム}。道^{ハシム}。下^{ハシム}。の^{シテ}窮^{ハシム}。若^{ハシム}三^{シテ}家^{ハシム}。主^{ハシム}
小^シ作^{ハシム}。も^シと^{シテ}取^{ハシム}。事^{ハシム}。未^{シテ}代^{ハシム}の^{シテ}義^{ハシム}。候^{ハシム}。と^{シテ}き^{シテ}ひ
そ^{シテ}小^シ國^{ハシム}。ド^{シテ}り。奉^{ハシム}。は^{シテ}礼^{ハシム}。義^{ハシム}。と^{シテ}。を^{シテ}ん^ト。され^{ハシム}。そ
の時代^{ハシム}。か^{シテ}く。少^シの^{シテ}有^{ハシム}。並^{ハシム}。と^{シテ}。と^{シテ}も^{シテ}。一^{シテ}見^{ハシム}
か^{シテ}ん^ト。され^{ハシム}。今^{シテ}も^{シテ}。も^{シテ}。と^{シテ}も^{シテ}。内^{シテ}日^{ハシム}。翌^{ハシム}日^{ハシム}
大^{シテ}日^{ハシム}。且^{シテ}。零^{ハシム}。い^{シテ}も^{シテ}。と^{シテ}も^{シテ}。大^{シテ}日^{ハシム}。翌^{ハシム}日^{ハシム}
御^{ハシム}。と^{シテ}。組^{ハシム}。後^{ハシム}。數^{ハシム}。と^{シテ}。と^{シテ}。基^{ハシム}。總^{ハシム}。而^{ハシム}て^{シテ}。零^{ハシム}
の^{シテ}有^{ハシム}。金^ヒ。事^{ハシム}。か^{シテ}。と^{シテ}。武^{ハシム}。也^シ。と^{シテ}。支^{ハシム}。一^{シテ}日^{ハシム}
ひ^{シテ}ある^{ハシム}。と^{シテ}。零^{ハシム}。又^{シテ}も^{シテ}。と^{シテ}。も^{シテ}。

みくさの山と。そのじひとく。其基縁行つ者
侍文武の字ひが常也。必ずしも寄らと。そ
わそびぬひに。されば右の書。冬の多る。腸ハ難也。
まはりくひの。どうや。連歌ハ音より後世。ま
玄暦。こよみかうと。どり。どひ多めり。季と遙る。
腸ハ季と付。腸やんの字と。物の名かく
ごじうを。仁治二年三月十六日。參時許立不
ふ善行して。後夜前の唐死と。かく
事あげて。せのかくひと。物うなれ。秋の
散す。まもあくれど。と詠せりて。是の詠歌

と。もと。通食代。と。の軍家の詠歌。寄集
載らきたり。美朝云。和寄。と。て。ひよ。苏共
弟尉朝歌。京郊。し。通食代。と。の。家。の。詠歌。寄集
寄。と。京。中。將。主。家。の。朝。臣。へ。走。ひ。下。御。寄
合点を加。ゆ。を。じ。又。詠寄。れ。口傳。一。まと。缺。ど
六義見。科。の。事。用。ひ。易。く。少。と。から。又。建。仁。三
年。癸亥。六月。二日。朝歌。京。教。し。下。忌。と。新。古
今。和。寄。集。と。ね。家。と。毛。道具。有。家。と。家。と。隆。
雅。經。お。の。約。后。と。け。す。あ。り。お。寄。と。す。と。
て。玄。三。月。十。六。日。お。毛。と。撰。ド。月。四。月。よ。參。済。す。

のまことに。あんとをこらへども、彼方の義也。
然ども。わ軍家。和議とのまゆりより上故。右大
將軍の軍事。携トヘラシのす。やるるよ付く。まろ
か。従ひ。ふゞ。うりととだ。よし。やめ。P. さうえ
タとよ。と。盛。朝親。たまく。立。家。勤。臣。と。屬
し。高。弓。と。ま。れ。じ。則。ば。集。の。絶。者。」
乃。弓。計。略。と。め。ぐ。と。書。を。と。べ。き。の。ト。作。す。
やら。の。不。よ。約。雅。重。忠。お。が。事。か。付。て。都。鄙。珍。
を。も。か。よ。延。引。そ。ヒ。金。上。ヒ。と。そ。く。寔。妙。云
此。盛。経。を。く。か。ア。モ。放。送。セ。ア。ア。ア。新。古。今。小。

奥淺の。いとで夢が美ぞもむ半ばにうてよ
案の碑。左大將軒胡と記せり。はかにゆくのせんし
エ。略」と云々。故ニ新勅撰續古今續拾遺新後
撰玉葉續千載續後拾遺同雅新千載新續古
今。ばあの集。新胡の詠とぞ。代て通念の軍
家の詠。れぐりと。そち。わびて記。かう。家萼云
わすと號ひ。名。含然のため。民謡つて。有首。二百
首。秀とほくみと。と記せり。宣家ね鶴のつて
か。方葉ふ一毛と。わ軍氣をんせす。か。夷族化
事なし。どりきのれうをよらんやのう。絶あり。

家尊弘長三今年中の所詠。教主の内と外
計三百六十を以てある。民祐為家の鳥とみ上
も。則一書の状とぞ。六義の奥育わりと云。宗
き。ム。達也。年。より。嘉元年。よ。むすび。の。詠。う
と。携。ト。集。ら。く。是。と。初心。墨。草。と。号。も。と。と。云。
て。い。き。ハ。東。境。の。一。書。記。と。者。の。名。を。あ。く。も。と。元
長。老。右。小。折。判。せ。り。され。先。手。は。書。の。根。源。と。爲
ふ。よ。故。入。道。右。大。脇。左。廣。元。約。左。名。余。の。ひ。幕
府。の。こ。ま。い。と。執。り。の。名。あ。永。元。脣。あ。う。京。都
も。重。利。來。し。る。金。書。か。ひ。よ。や。ス。キ。テ。ノ。の。歎。狀。

酒中とすひ。あ鄰。小巖。以下。或。家。し。と。沙。活
し。來。事。た。と。記。詠。も。文。活。より。あ。う。或。
家。地。頭。右。勢。乃。降。く。或。自。平。氏。合。族。の。時。京。士
人。ん。こ。の。次。ホ。乃。は。文。あ。の。文。書。も。あ。り。ム。要。よ
き。さ。う。て。右。毫。の。皆。ア。く。ま。う。後。と。よ。と。
云。よ。而。と。よ。散。を。と。が。轟。ち。の。じ。事。と。よ。と。竟。云。
未。代。の。龜。鼈。を。も。べ。と。李。侯。泽。園。ど。金。ら
よ。と。て。是。と。多。集。一。ゆ。貞。永。元。年。十二月
又。自。目。詠。と。と。の。人。泰。附。統。持。十九。年。法。丈
次。第。と。あ。く。如。そ。れ。より。次。い。ね。軍。家。の。時。代

を。書つて。け一部。東後と号す。ば文ひ
とへ。泰内了。弟よ。のりて。末代ふらむ
ね。抑佛教教約よも。まろ事。一壁。太子よ
り。こねく。ひろまわら。太子の救世觀世もの。
化力やくわく。まとと。を難き。細め
を。墨と。筆と。夫。教。四十。九年。の。說
せう。すと。一。素。の。法。よ。そ。無。二。示。す。と。以
た。日。域。よ。よ。て。八十。家。よ。づ。て。伝。教。と。
な。ん。が。弘。法。大。師。傳。教。大。師。ほ。佐。上。人。親。寧。上。人。
日。蓮。上。人。是。の。人。一。家。と。真。諦。は。生。於。

の。佛。來。現。と。も。こ。も。教。紀。と。末。代。よ。創。す。も。で
降。り。と。び。く。も。あ。一。説。の。文。を。を。寫。す。ア
と。び。て。経。身。と。と。つ。た。地。家。と。法。海。み。も。く。を
紀。世。の。全。き。と。わ。か。の。身。ひ。し。經。則。、教。約。末。代。よ
と。して。あ。ま。ひ。く。佛。法。の。梵。文。小。用。う。べ。れ。も。し。
初。之。宣。書。又。經。七。去。ハ。唐。國。の。文。か。る。と。自。有。み。く
き。と。生。か。ひ。終。り。文。さ。う。ん。な。る。呵。又。王。法。も。盛
か。り。武。キ。と。く。も。う。財。は。國。家。豐。饒。か。り。と。ふ
ふ。文。武。ハ。先。天。地。の。と。く。陰。陽。相。生。の。財。富。人
病。か。り。か。ふ。教。儒。の。二。文。と。ど。い。り。と。ま。ゆ。で。

卷之三

一
如右大將家以後代々公方之法式可
謂終始
者損益而自江戸を被御身消者一
各均置く諸侍以下者為叛逆殺害人也於

萬葉十六年四月十二日と云
かまうぶみさうじ
初又東邊へ。東側の邊の邊のとむわゝも。暨宣方の邊
くわ
戒とすがらんやと。左の二丈、或差守了
わちやうどんご
きく
若よもて。我胡万代の鬼邊より。猶半春時ハ世

秀キテ文武乃き人。上左よキとぞてくナ。ア
ク、もん後世よどてをや

○関東侍天下よ望とがふ事

史ナキ。關東小滌を系を支平野及侯康云ハ
伊豆。相模。武藏。上總。下總。上野。と治る常陸。下駿
駿河。沼津。とすけ。關八州。歎とうひ。文久至
剛の名ねそり。モヒ侯康小歎對のくと。安房。一里
一ノ馬。以義弘。帝陵。小竹。北義重。下駿ア
宇都美。二郎。國體。鐵後。小毛尾。氣虎。甲斐。一
武田源。法玄。駿河。今川義元。東西あか。歎と
キ。諸子。義と。争り。既と。第ナ。ノ。義
と。行。之。令。と。將。大。主。と。ん。と。死。と。わ。と。ひ
死。う。れ。つ。敵。味。方。の。骸。骨。地。あ。さ。血。ハ。體。ま
と。そ。ら。敵。味。矢。さ。け。び。の。と。と。震。動。や。ん。と
ナ。強。而。ア。弘。治。二。丙。辰。の。年。わ。う。い。き。と。戊
康。信。玄。義。元。三。人。の。中。幸。事。ト。小。底。ハ。主。戊
息。氏。真。公。氏。康。の。聲。よ。う。じ。ハ。玄。息。義。徳。公
義。元。の。聲。よ。う。じ。ハ。玄。息。義。徳。公
武。因。ア。ニ。家。一。味。よ。う。り。ひ。キ。ト。ア。子。細。三。人

の大功を奉事する所と之れ。の意よハソハシキト
天下よ望まとす。すりよかうと争きてより。觀
東のを制とすよゆへや。小力す。人よ
天下よらととく。ひ強よ義元。後。ま。冬。そ
軍。一万余千と引率し。後。村と打立。家教
をせめよ。尾羽。諸勢打散て。乱鳴。みと
義先。松原。あく。酒。り。一。タ。下。織田。二。良
信。六七万の。人。教。ゆ。と。せび。い。味。ひ。よ。ま
んで。そ。と。せ。尾。蓬。園。と。ん。ぐ。か。く。が。と。云。ふ
也。承。元。二。年。度。申。又。月。十九。日。義。元。ハ。絶

長。乃。そ。り。よ。が。ろ。ひ。内。八年。八。月。十九。日。云。方。光。源。
院。義。輝。云。三。ぬ。身。を。か。よ。か。生。害。也。二。ぬ。曉。源。
子。息。左。京。大。天。下。と。二。代。の。輝。よ。伝。名。義。波。尾。
張。竹。勢。三。ケ。圓。の。勢。と。引。率。し。京。都。へ。せ。め。上。り。
内。十。一。年。十。月。十。二。日。入。海。も。と。之。以。後。云。方。義。船。
セ。ル。民。康。ハ。元。龜。元。年。十。月。三。日。病。死。成。美。ハ
伯。父。伝。玄。ふ。逃。出。せ。れ。て。後。車。と。太。郎。安。徳。ハ
父。伝。玄。よ。こ。ろ。され。法。玄。天。正。元。年。二。月。十。日。上
病。死。と。輝。虎。内。六。年。三。月。十。三。日。小。於。死。と。

月年の暮。上松三郎家東虎。もと毛利平次。東
勝まさりふ害せしれまれば。氏康。法玄。種虎
は三人の内。人ね余ふとては。後も滅んで
ゆき。よは後も天皇。江戸守と。諸人沙汰
せり。月十年三月十一日。武田勝於月太郎。経
父子の絆も。そのまゝ。月年六月二日。経
五三姫中將。徳忠父子。ゆる。朝日向ち。光秀がためよ
滅モ。月月十三日。光秀。羽柴義就。もち。秀吉
ふけ。柴田信。義勝。家。織田三七。法玄。あん
を秀吉。たゞよ。謝ざる。毛利家乱も。す

月十八年七月十一日。氏政ハ秀吉ム。ゆり小
切股。民盡。ハ。も。山。よ。へ。文禄元年十一月
四日卒。遁。と。園白秀。次ム。ハ。文禄元年七月十
五日。も。贈。山。よ。と。て。大園。ひ。ため。小切股。義
照ム。矣。も。一。年。八。月。廿。八。日。薨。一。経。ひ。り。秀。吉
は。月三年八月十八日。よ。他。男。也。通。毛。水。祿。も
中。よ。生。れ。も。う。り。こ。う。く。天下。よ。や。も。と。う。り
ゆ。大名。右。よ。祀。と。が。も。二十二人。ば。内。十。父
も。う。父。う。そ。率。し。せ。ん。ハ。病。死。す。り。叔。又。右。乃
内。父。父。果。旅。く。く。ふ。天。ト。小。義。矣。と。わ。び。武

わの絆よ付ぬ。されども内ちへ、うるさく
果持ひぬとぞんば。もくやめて。されども。漏
縫より、走きがりんもくらむたことさん。ふれ
き然ありとづり。一生の功。力縫すまぞ。思ふ
か死ぬ。かく。一月行の内。身も禍多
し。うちもれきを。極。たゞ。がえの蟬。附身
がよすくと。ころよ鷦鷯。さんとも。産又
が。じやを守る。たまの下よ。まじ。うと。尊
て。射んと。まよ。はき。よほき。谷も。と。も。と。
力を。わ。まち。首を。まへの。と。なす。ひよ。後

の音と。うり。見。ど。ご。が。ん。で。ア。ク。う。云。と。ま。と
お。ひ。く。れ。を。ま。

○関東の乱波静勝の事

見。き。者。関東諸國。み。き。う。あ。と。れ。て。あ
ひ。う。す。れ。ら。の。者。盜。人。み。ふ。と。盜。人。み。わ。く
ら。ん。か。く。こ。を。か。げ。ゆ。く。摸。乃。た。る。老。た。也。
或。文。よ。亂。波。と。記。せ。り。組。五。字。れ。が。つ。か。一。信
其。ほ。ら。も。と。り。す。れ。た。は。者。と。國。大。名。京。村
お。高。ひ。ぬ。是。ひ。づ。す。ま。細。そ。と。ば。乱

は。秋園よも盜人と。よく票を數金す。乃半
て首と切。よもきへ秋園へ逃げし。山賊海賊來
討強盜す。てあれぬ事すが上手也。才智よき
て。謀計聰明ともぐくと事す。凡てよろひど
古語す。猶くも賢とされりんと。賢ととと
より。されば者と。盜人の相あらず事也。舍利
弗も。おまともりて。ぬもととくせられりうと。
おき文とよかと。亂波と号したるのみ。しら
され。武士の如謀計策とくぐす。秋園を切て
れと又ねり。極又敵閑と云者盜人也。陸棟と

云者。承りよ家長安へある。因閑。もろりととりぐ
陸棟。が承のうちよ。盜もよんと。陸がよく
海が黒羽を。見ゆ。よく。よく位ぬ。もすくしへく
す。何とく。盜をするやと。云因閑。ひよ。ど
志とり。ぐと。事切。と。が。びよ。ひよ。だめ。く。帝。や。す。う
あひて。お軍。ふす。ほひ。ひよ。是と。おり。ふ
漱。よ。關東の。ら。も。が。お。車。あ。く。神。仙。と
す。も。た。く。も。盜。人。業。を。え。よ。う。と。

爲うされ。終よ小隊をあさる。卒 民直の黨
八列小廠とうひ。隣國皆歎すらよそ。
キテいのん事ナリ。武田は郎 源徳松内
太郎徳徳父子。天正九年の秋。徳深。甲
斐後河三ヶ國の跡となりよア。後河三牧
を打。黄浦川の難所となる。流物
と率し。伊豆のようがる。二偽よ陳とする。民
並乱波。二万人抜かれて中止の患者も。れ
が名と。凡ナと云。たゞハ西天竺。六十人の中。の
くせ者と外道と。いふやう。ば凡ナと角取の
中。にあり。山海軍賦。強竊乃二盜也。有り
山海乃あ誠。山川。よ甚。強盜。よき不
と押被くへ。竊盜。がそつ。盜人。と名付思ひ
が上。ひて盗ら。承討。とりて。才一と。と。ば二首
人の詮索。定ひ。少少て。おの波平。もづづね
乗し。風の吹。よ。吹ぬ。車も。黄浦川の太河
と。ねたせ。ど。寺。後て。徳松の。陰陽。わく
鳥じ。今。人と。生捕。ば。か。馬の。縄。と。切。ふ
せ。かく。ま。と。と。手討。と。か。捕。れ。捕。

もあらへ。多うこへたとゆ。宮方八門へ。味
方がふまよんて。歩きへて。園もとあぐれも。
並はさば。勤極。ものぐ一葉やうふ。二三
人え付づよ人。曳引。もひ。もそて。ゆき
もすきと。のを。前後。ぬもし。味方のひ
ぬと。敵。ど。なり。討つ。され。ゆ。と。ちじ
算と。乱。て。死。生。よ。や。し。和。ゆ。て
首と。実。檢。と。き。官。同。士。軍。して。殺。左。主
と。うち。子。親。の。首。と。ぬ。わ。す。り。面。目。な。よ。
誓と。う。ら。ぬ。と。う。る。誓。の。旅。ふ。の。び。く。そ
れ。が。う。り。ぬ。ね。又。を。お。お。り。と。ゆ。切。十。人。計
ひ。も。く。下。く。せ。ぞ。り。居。す。う。が。が。て。
ま。び。き。く。も。服。と。切。う。ん。と。う。ふ。不。よ。
討。親。と。敵。と。ま。し。ひ。と。謝。せ。む。ん。も。ス。逃。六
達。方。鬼。の。ご。べ。く。し。二。百。人。の。恩。盜。と。だ。
生。と。か。て。そ。と。せ。ん。や。凡。大。亂。敗。の。大
勢。令。と。捨。げ。れ。と。討。た。安。く。へ。今。肩
を。承。討。よ。耳。く。ア。が。本。う。ろ。う。も。て。
ち。り。ぐ。小。威。く。ゆ。く。ふ。四。と。中。へ。移。生。へ。行。

ま。官一軍を集めべ。それ凡て八百人
の軍よ多くがれかれ大男。長七尺二寸
の足の筋骨わくくあぢうに小村ふ
きて。眼はきみぬえまけ。黒髪もくに脚あ
る廣くさけ。さじで写る事へゆき。うちハ
福祿夷よ細く。鼻たゞ一聲ともくくせ
せじ。平町やくよひくとせひ。かびよ
ふそ轟きり。まよ事へなれどよ。
主附風テとん封。しどどくんで。うち
かくとまのからとす。云々の心厚

す。さ。云君亡視。黄泉乃く。ふせんや
あすが車の道筋。少くふざとろゆて。
まふつてぞ。あふる。凡て例の取討し
て。數く小敵て。ふぐく四十人。力者を主中へ
出され行。まつ二百人。みづ一軍を集めり
然じて。討強盜。して。汝の内立ヒ。ぐり。最す
ぐりとりよ。事わら。明松と。こり。幼来の夢
と。少。諸人。月明よ。かくと立氣と。夜。毛
の謀す。ま。それへ。争ふとえり。出さん。ね免

アタマの所。歩きへまよ半人の者ありて
はまども。と。えりあられ。みあくれたり。
そとびんすれ。やうの事かれ。ひ勝船の諸
勢。乞ふくじ。ひき取ぬるべ。まういともさ
すて。晝跡。タラ所。かぬだ身をたうちめ
いひ多ひ。ひうりや人て。六時半下。せばうぶ鳥
吹とみ。とぞつづら。其書の云々。と。おほへ
どや。多の山陰。この日も。と。鷹の飛み。
多くと。鶴。と。あら。凡て。が。思ひ。乱波。が。ま
ふゆ。まう。と。じり。ひきば。と。わや。第

アリ。道とえ計らひて。也は強き劫乱。アリ。地
向く先とかづよ。人へとかず。くろんば馬よ
シと。ひし。今。うよ。と。と。あ。疾。炮。よ。火。繩
を。も。ら。ム。手。戈。と。枕。く。甲。胄。と。ま。と
し。秋。三。月。も。そ。と。ち。ア。ア。ア。ア。ア。
思。ひ。や。や。や。や。ら。ら。ら。ら。ら。計。や。こ。ひ。ア
事。天。正。十八。寅。の。年。も。で。え。ひ。る。が。今。ハ。國。お
さ。ま。り。自。身。度。ひ。代。られ。風。ア。が。う。ハ。さ。机。波

少名の。関東より移れて、そち
の。駿船と。海賊。こと。ひを事

忍トヘシ。小隊兵士と。三日義和。う失の時
義。相模安房。國のりよりへ海もく。母の波
海もく。れよ敵も味方も舟船もひくまで。
をそひ死んとれ。もうかねば或財を
小舟一艘。二艘もく。ひととこよ外く。演色の
里と教へ。女らうひへと生捕。即刻手中
小舟。二十艘六十艘。波濤。浦
里と教へ。女らうひへと生捕。即刻手中
小舟。二十艘六十艘。波濤。浦
くよがく。敵方へ貢米と里送へて。本ひ
ど号し。半とくあく振絆と。れよ生捕の勇
女と。乞ふの者。敵方へ内通へて。實也と。去役小
舟よと。れが。敵も味方も。海賊や波濤せんと。浦
里の者。されまつて。用心と。海賊のゆ法日ち
和。ひ止事な。今、諸國治す。天下太平。海
を浪の上す。でもどぐ。海うみて。静ならぬ時代也。
船を共船。船はく。戸川よ。みどりを犯す。あら
人いきさ。舟のゆれと。海賊の者と云ふ。れは
中ふ一人。ひ云ふ。と。どがく。いもく。ぱく。なり
山賊海賊。といふ事。山よ。多く。盜と。かく。まよ
て。ぬと。こと。と名付。り。文字。もと。もと。もと。

奇よも詫く詠やう。すぐり馬の弓の武鷦
とちとも。じとてうるもく。盜賊と武
鷦の文字うつ。みちとすれひにかう。それ
うふとす。ぐる盜をするも。武鷦もみふくも
ゆどとて朋裏とせん。もとぶる戰場よとて
を相利ね生ゆ。行とんづ。勝え、より向ひ。或へ
疏慮王相とく。日とえび。四をとく。死來ても
ゆうと。没せんとはつと。か時の味方敵の大わのて
をそとそらて。と行のかくね根よ。かくも
謂鷦と。乞とくをせしむた。謀と伐とよろづ。更

と依兵と伐敵とせし。もとくろ計策。告水道
力外の安鷦す。り。旅と。才一小謀と。うつと。う
き。おとく。うづて。勝事と。うづり。敵の兵の
居もうやう。小。智計と。めぐ。接焉と。そ
利と。うる。と。吉の兵力と。と。モ。先豫子が心
なり。極又。小成敗式。自小。山賊海賊あり。事
と。化せり。あれ。の人と。敵と。者也と。計を
て。鬼糸の體を。うつ。小。江さ。ど。又。強竊
二盜。り。少。法。あり。強盜。日中。の盜人。威力を
り。人の敗。主と。う。ど。い。敵。せり。う。と。の。敵

盜人ナリ。是ハ威力ナリ。ハシナリ。少人ナレ。而盜
犯。名付。トガテ。ナリ。トモ。ナラビ。ナリ。ナラセリ。
竊盜。リ二字。ト。事。ジ。ト。ノ。モ。ヒ。ソ。リ。少人。モ
レ。ト。モ。ナ。リ。ナ。リ。ハ。ト。ナ。レ。ト。ド。名。ナ。レ。ト。モ。
盜人。ト。ツ。ヘ。ハ。應。達。ナ。リ。少人。が。そ。う。無。ハ。ト。
ハ。ヘ。ト。御。ナ。リ。ナ。リ。又。死。鳥。凡。月。少。よ。モ。ト。ト。
盜。の。ト。ど。ど。派。セ。リ。凡。死。の。も。ト。さ。そ。少。モ。
凡。賊。ナ。リ。病。月。報。ト。ト。レ。ヒ。ト。ノ。爲。誠。ナ。リ。
モ。ハ。意。ナ。レ。テ。立。バ。ち。賊。ナ。ギ。モ。和。寺。ヨ
諭。セ。リ。主。上。佛。の。眼。耳。鼻。舌。身。意。先。

ト。六。賊。ト。説。ま。ナ。リ。又。中。ノ。鼻。少。紀。信。よ。味。
カ。ナ。ナ。レ。ハ。よ。事。告。賊。也。六。狼。六。菟。六。藏。
三。六。十。八。の。宿。累。乞。ト。佛。ハ。盜。人。妄。相。狀。懲。
ナ。ト。く。極。く。よ。失。名。ト。付。給。ト。リ。彼。欲。誠。ハ。人。
名。よ。付。そ。ト。い。それ。起。ト。ア。富。ト。ワ。ト。リ。少。
乞。ナ。ナ。リ。乞。ナ。右。人。ハ。方。法。一。心。よ。ナ。ト。モ。神。敬。
少。ト。て。二。千。七。百。ノ。云。素。ト。ツ。シ。ト。ナ。リ。少。ト。
少。ト。リ。ト。セ。リ。か。ト。經。の。一。は。ノ。切。諸。法。ト。復。
已。ナ。ズ。づ。く。生。死。の。玄。來。ト。却。ナ。リ。多。ナ。リ。生。ニ。
不。可。得。ナ。生。死。死。又。不。可。レ。死。ナ。リ。終。至。ハ。

生に死を爲。死は死によせ。生死よどて。正
ははくらう。是れ一念不生の本なり。是れ即心即
佛也。即佛とすとしへくもど。又即無滅
あり。ふよ無滅す。はえきの二相と云ひとべし。
一切の法界。のつかひ。ゆくつづくは無滅。さざる
明の方事。をみて。一物をくぐる。生滅を歎く
矣。して。生死のうへあ。それきく。がのこ。
ときのいきうち。叔儒の三文よくりく。記せり。程
の流。人のかたを。おれがき。迷ふ。すみ
かあくと。人のまよふ。すがへち歎かうと。叔儒

者のかくを仁義とも佛のいさめもんを
ことひどきと秋うそともみて化りもひと
ひづやんこそ。かとすらばれ。強君よア
えまうどきよ。圓乱。民くわくわく
ゆふ。圓位とうごんがめ天下と計。
黎民乞ふとて終ふ。そのうと天神七代地神
名代玄て。神武帝みちど。自が圓ハ王也。
民ハ子ナリ。王位の政。そそくはくの國民
安穏あんのん。さて。内政とかくさも。雨つりこれど。
じうちど。是夷うちもよすの臣人からが廢。

莊士よ云萬民として子民ハ義と自じて又

ことと多く。御子は神功皇后所安葬の事也。

ひとの圓とよどひうらんと歎歎よまし。海

織舟有くもす。美圓へ漫遊。船頭の歌ひと

かくす。歌ふ。歌ひとめれどあられ下。たまく懐

妊うわすせうふ。歌。まれり。大ゆて。ふとも

ひのう。歌。歌ひとよがどきよ。て。利。摘と

うりて。腸とく。ば例よ。の。首。の。兵。士。

腸。猪もろはじ。それなり。万里を厭ひ上馬よ

うべ。まくさか。海中の。康。とれくらふ。

かよ。神。ち。草。と。名。付。アリ。神。馬。薄。と。書。く。ありそ

こ。し。も。ば。内。も。と。皇。后。三。韓。と。う。ぐ。ば

うち。ふ。と。が。ぐ。ら。と。活。ひ。え。た。万。里。の。路。共。瓶。東

軍。遠。と。る。日。が。國。の。民。百。姓。也。先。よ。と。そ。や。が。き

か。か。と。そ。を。ほ。づ。う。び。て。画。と。ぐ。と。元。曆。二。年

安。德。天。皇。同。女。院。も。海。織。一。活。ひ。る。長。門。圓。赤。弓。

圓。の。海。上。よ。と。て。源。氏。八。百。余。艘。平。也。又。百。金。艘

と。う。う。合。戰。と。平。民。討。員。を。帝。も。二。位。屋。上。也。

も。ぐ。々。海。底。小。舟。づ。く。み。づ。く。源。と。弱。り。よ。上。人

の。欲。織。下。方。民。う。き。ふ。義。と。史。記。よ。り。

釣となどし者ハ謀せん。國と竊じ者、侵くらりと
き。釣ハ常々付うづき、合ぬじへ小盜の犯よど
み。大盜ハ國となどめた。尾糸よりてぬとくらり。け
み。三皇ニ帝世と治め給ふ事。天地の為よけひ。
改すれがからうか也。堯王位は即治ひて民の底ト
とくもきいてんげつト。がくト。どとくト。あ
とやうそよき。才人ト。うづト。ど。まよふせ。りやうト。そ
めし。後ト。も付ト。も民ト。隣ミ。國ト。よよ。政事を
されば今の世トでも。堯ト。帝セイ。天ト。下ト
治カ。あ。こそきべくレ。せハ仁義ト。りてナ。そ

是ぞれ人ト。仁義ト。道ト。そくト。はやそよわト。は
して大ト。おふとト。とト。や。そとト。生涯ト。よやト。した。義ト
を守ル。と大ト。おト。とト。底ト。底ト。歎ト。いぐりト。とト。音ト
も。がえト。とト。き。ば。羽ト。角ト。ア。越ト。王ト。会ト。鑿ト
の風ト。すく。二眼ト。亀ト。の浮ト。未ト。より。く。が。と
。は。羽ト。角ト。ア。生ト。歎ト。口ト。毛ト。屁ト。奥ト。未ト
代ト。とも。え。ベ。う。ど。ほ。く。ん。こ。國ト。守ト。護ト。も。る。も。滅ト
國ト。か。ち。も。大ト。お。の。底ト。よ。あ。と。天ト。令ト。の。か。も。運ト
も。が。く。ま。と。天ト。よ。生ト。を。義ト。と。義ト。一。後代。

名譽と称さんとぞ大ねのやうなべられ。右の
織の二字より多くの子細かり。字面より一事を。
ちふ事も二種よ宣ひに疏蒙寧廟の栗が名稱
なり。先と兩門へまます。一年より二度から栗
栗也。されば栗と名付。寄よ。

はくしんぐくとくらき栗の篠よひをす
て。栗ふとされど能固は跡より。すぐく人
かても角をうさがすかくとくと我ふよ
希少脚をくせたるふわうりても。まとひ
ど。ゆへ下り宿ひひづくすうそく。乃じたれ。

は事と原とく益やうことすり

○人名題号。小もく野事

凡てをほ。園東の百姓町人。名前も。共庫助
大學をと。餘念の無と。時より疎遠と。同多。園東
諸國み。れり失もと。予と。ひ日和風んと。む
い。御す。ある百姓町人。行革の。あ。お達の。と
へ。行達一中りくね。年。中。めも男と。多く者。も
一延間と。と。歌と。と。が。達と。あ。多く。も。せよ
ても。家半ひうちと。ゆきと。えと。わらうと。の
用小半れりや。も。名と。と。と。と。も。か。り。

ねえいぬへ。寄どくとて、もとふるを名付ねまん
れゆ。新古今ノ

めいひよより 徒の聲しきばあうむよられ
鳥のものうほどゆ風よまさればめいひのゆ風と名
付ねじよらる差人

めうてよ。あがいひそんちのもの。まとうも
きどくがすりかよんと御より。あとの差人と云舊事
ゆえよびうちよととね。と御トモリなれど初事の
もの。おちよととね。と御トモリなれど初事の
ゆえよとぞやうる。若人へ寄ゆくとあうとさゆ

をよそし給ひゆ。人の家の門よ柳の木をゆ。
柳本人丸と名付赤人へ山毛と云ふと云
人乍れ。山毛の赤人と云ふと云ふや。名ハ豈号ニ
あらずとつづ。古人のとと。おとひあれを
至。今はその町人の家名とつて。姓生しゆの
國郡立名と付て。あ世の風流とと。名も内代
ふと。うつとまれたりとつへ。が費用割と云
人まで。國郡立名と。町人の家名と。おと
らど。國東より。伊豆を魚取行。巣上魚。魚
かど。を名と名付ゆ。國東小がくれ

か此大名をすりへたりと云。我等をも多からむ。於町人名多く者。かるまう。天下のあ
多。ゆくま。はと門と。暖歟天皇伏見
院。深草院。素良の浦門。よど門。也す。帝
三の山名と。ゆれ。されば。ゆる。もの名。而
人。生。ゆ。ど。よ。ア。ぐ。どう。の。わ。し。山。用。を
ゆ。い。義。と。ど。ひ。し。も。ゆ。細。る。を。方。へ。め。三
浦。ふ。る。く。告。え。良。た。東。門。と。云。今。江戸。
本。く。三。浦。み。れ。な。萬。と。名。付。三。浦。名。字。ゆ
来。な。く。と。名。字。を。づ。ア。と。つ。よ。画。亮。す。て。

三木。さす切股。一後ひり。と内競。それぐ。おからぢ。

トセウ

三木ハ

口。あら尼門。耐候患。三浦の城。かう。一後。の者
を。みが。身よれ。家。三浦。城ケ鷲。へ。承。く。身。と。悉。
鷲。う。れ。あ。ざ。そ。早。雲。三。鷲。へ。も。せ。來。は。敵。が。鷲。
邊。く。身。と。之。れ。た。海。と。へ。や。そ。私。一。鷲。も。り。さ
生。ば。せ。ひ。べき。底。う。な。鷲。も。り。ひ。と。く。く。身。と
漕。せ。相。摸。演。色。の。左。西。へ。も。る。終。海上。早。雲。
乃。ひ。よ。う。と。終。上。通。念。達。長。寺。延。覺。寺。兩。禪。
寺。船。舷。の。も。利。ひ。る。と。皆。み。ひ。左。船。附。と。ほ。じ
ゆ。一。終。ア。龜。傍。近。本。下。里。三。家。ひ。名。字。の。中。に。し

ら。千。人。早。雲。幕。下。小。屬。も。乞。小。役。て。三。浦。十。人。
旅。と。号。一。ある。の。ど。く。と。勝。よ。至。城。一。早。雲。よ
里。知。れ。と。三。浦。通。色。よ。と。と。て。二。而。よ。わ。て。と。こ。あ
る。と。も。後。小。除。氏。康。云。男。小。除。義。法。守。氏。親。永。祿
年。中。少。三。浦。と。知。り。一。後。ひ。く。れ。た。十。人。旅。の。龜
色。を。う。と。ど。部。役。と。も。三。浦。十。人。旅。と。号。一。役。よ
付。一。名。引。分。て。今。ふ。う。り。乞。本。代。ま。で。も。旅
里。と。も。ま。る。旅。役。也。旅。よ。ち。年。小。除。氏。康。役
旅。以。後。家。康。云。本。代。ま。と。して。お。若。門。七。左。

秀村を三浦へ打合三邊へ奉り候ふ。と初三
浦十人前、七左衛門後ろ百姓小盛く。前
日が田地乃きまことに御方令下とろぐ
とぞ。それより田島とれどと以て在る。がとや
まみひ島。わまくまへ年々のまをもま
す。とふ。は代左へ嘉子と引く。まんとも
ば大切に。まきと告納。江戸盤昌ちま
かれ。富むに戸へ本うすよ。翁へまく三浦
ス郎左衛門とよべど。何事ぞとあくふぢか
ごらふ。争ひひととひととつた。ひ名どよ。

古語よ。名の義ふちよ。とまく。キト。何すも
道程よ。背ふと。とせり。されば。旅取。年粒ち
ね云の方。今。三浦夜喜の城。と。狩苑せり
三浦大介義。ゆか。や。狩苑く。と。年。まで。三浦
ふもく。三浦と。名家。人。三浦を。通す。是。狩苑
それより。早。か。この。民。直。云。代。主。を。三浦
小姓して。三浦の。十人前。と。三浦と。名家。名有
名字。と。め。一段の。かよ。と。い。と。然。と。い
も。か。ひ。や。と。あ。の。三浦と。名家。も。若し
か。生。ド。さ。る。先。義。の。内。の。ま。う。を。み。ま。よ

さうが文ひよも叶ひゆう者か

○國八列乃并小大小多至

丈ノを昔。殊ノト。ゆう事。大寶二年壬午
乃年。計綵と化り。帝ト。リ。諸國へ下ゆく
事。古記より。くそり。松又。も。玄ニ。己年。
文。義の御宇。ア。モ。ヒ。外。ト。ウ。タ。ル。キ。ア。ハ。
い。ア。人。園。東。ツ。テ。殊。ト。大。小。わ。リ。伊。豆。相。換。ヨ。
モ。ニ。京。殊。ト。ク。京。殊。少。カ。太。ナ。リ。外。ト。ヒ。ア。フ。
武。姫。ト。リ。ひ。ド。ノ。園。ハ。太。殊。ト。ク。外。ト。ヒ。ア。フ。
モ。ク。ト。ア。リ。一。綱。ヨ。三。殊。ヘ。ミ。殊。ヘ。一。計。ヘ。リ。
外。ア。リ。脚。ト。モ。レ。ト。ア。リ。脚。ア。リ。脚。不。小。民。
廉。代。ト。モ。ク。園。代。川。ヘ。殊。一。綱。ヨ。ア。リ。タ。ム。
ラ。ヌ。ミ。角。ア。レ。ジ。不。ヨ。百姓。大。ち。ん。競。の。ハ。
そ。く。ミ。ト。モ。見。さ。趣。計。沿。ト。小。綱。ヘ。わ。止。
ら。ク。ミ。武。姫。上。綱。ハ。大。く。ト。モ。京。殊。也。綱。の。殊。
小。除。民。廉。代。ト。モ。安。若。殊。モ。前。寫。ト。云。者。化。
リ。出。ヒ。取。ト。安。若。殊。モ。名。付。伊。小。江。多。志。萬。
ヒ。シ。者。安。若。殊。の。大。小。ト。化。キ。モ。糾。ヨ。依。
て。天。正。十二。年。十。月。小。田。原。芦。子。河。原。ア。

ある。國八列の代をとへてゆきもる世よ
やく利根や帝みて。とどりて百と家し。
家とれどいと。とさう。指揮の者とひ
かくせり。強も國八列とどりて。とととば伊
豆の國ニ。鳥。良善の大を。あふやく。絶り出
と。一年。小隊民政時代。十二月。よ。大。小。
相遠ち。あふ。陰陽師。とりよせば義と
宝物をとつて。洋海。よ。い波。かづ。が
お元日。あふ。波。げ。ま。か。の。し。安。寶。を
おうち。波。お。か。れ。若。は。義。起。る。事。

あんと。山。あら。山。あら。山。あら。山。あら。
曆。頃。山。の。山。と。度。さ。る。頃。山。の。山。八
万。千。山。山。也。三十里。山。山。と。名。付。り。八月
の。め。ぐ。り。と。と。て。空。李。と。う。ん。ぐ。支。千。と。空。め。三
千。世。男。と。それ。う。め。よ。く。と。て。報。く。を
う。か。く。ひ。す。と。て。是。義。と。と。そ。れ。う。ゆ。件
の。義。と。よ。天。生。國。世。自。在。王。乃。由。う。より
も。と。よ。子。細。の。べ。道。と。ぐ。じ。ね。又。我。約。義
の。事。の。り。二。年。二。月。八。日。伊。豆。乃。二。鳥
色。龜。と。ひ。身。と。こ。な。た。じ。義。氣。今。ナ。奇。物

のすしとす。是と良寺よ細どく、も後
新羅國より人の毛翁ニ爲へ奉り。ひ義とれい。
とくと化り。日中國へ是といろじ。義と
名付る。小木中て。上方ナリ。上下九力よ是を
タガ。又ハ十一乃極數よ義とる者也。故と陰陽
のう。天地和合。又く。さう。やう。はう。ちゆ
とく。うねゆ。よく。と化り。まヒ。是によう。
ち。苦のまう。もわり。女郎の晴明。うまう。も
道徳がまう。もも。詳の二へ。紀山院のれうの
陰陽師也。弘法のまう。もわり。般若うかりを
とく。また。ま。半も。不。告。一時。ま。その深秘。そ。と。ば
一事。ふ。物。ま。り。御。ま。た。支。食。諦。一。か。ア。と。か
絶。P。おも。よ。ゆ。り。幽。不。よ。引。龍。里。ば。義。と。ん
そ。ー。果。て。見。き。ハ。ニ。房。の。こ。よ。と。わ。難。と。先
あ。そ。ニ。房。の。脣。と。身。ひ。ら。ひ。元。日。の。ま。又。蟹
と。の。べ。船。ひ。ね。ね。又。小。田。原。繁。昌。の。兩。子。ひ。を。前
守。朋。友。よ。船。て。い。と。く。民。繼。春。ね。院。と。名。付。こ
の。よ。三。人。の。目。と。す。と。わ。き。が。小。除。家。の。ま
黒。久。し。じ。い。り。と。人。や。も。不。思。後。よ。あ。い
あ。う。が。そ。れ。く。り。二。代。日。よ。歎。ワ。波。座。四。代。よ

滅モト強ひねばと。今もとをいし合せり。小
田原後藤以後。家康公武州に戸へ打へ算。
京外と名付く。うどとの方の上づらよしを
あす判きく用。先よそて首の関東外。
皆す。アリとんね。法華よ僧門の改代。國と
よどへて外の大内外と。楚圓よ方達
と。北山といひと。六解定計への外わらは。そ
里々大外か。仲由と云。栗方達と。此
ひとき。かのじ。既の外ありとうや。極又元和
年中。秀忠公の時代よ。十合への外
と。天下ふとて。自ら毛と。絵けりと。名付。戸
町の年も。榜印と云。者よ。外付。毛と。外
て。毛と。上方の上づらふ。うどと。毛と。角よ
里す。三。絵と。アリ。内よ。み。外。が。内。の。焼
り。六十餘列。あく。一外。と。は。よ。ば。外。外。よ
大。小。と。外。者。そ。ら。ま。ら。死。化。ふ。と。こ。か。り。漠
あ。も。さ。か。そ。う。わ。る。換。惡。の。者。そ。て。外。の。夜
と。三。重。よ。ヘ。市。町。外。と。小。外。と。は。よ。と。人。毛。と
あ。ど。天。雷。く。内。よ。え。そ。ら。と。地。と。方。と。そ。
市。中。の。人。集。て。毛。と。か。る。よ。せ。す。ふ。二。口。月

ハニキテテト文字あり。是とく事とくも。爰
み人をよび字の上に立一点と加へて子細と見
る。市中用小計とよゆりそれより皆人余
計と用ふ事。天道とぞモレ一とせ計乃ハ
カ漢和。とぞモレ一とせ計乃ハ

110X
231
10